

目的 現代衣生活成立過程の状況とその要因に関する研究の一環として、本発表では1980年代の着装動向について論及する。すでに報告した1960・70年代に関する成果と比較しながら、特に80年代に定着し、今日に継承されている着装上の注目点をあきらかにする。

方法 80年代の朝日新聞に掲載された衣生活全般に関連する1615件の記事をもとに、着装状況・着装意識等の面から考察する。

結果 一つの服種の流行によって一般の着装状況に鮮明な変化の見られた前時代と異なり、80年代はファッションイメージを軸として多様な着装形態がとられた。そのイメージをあらわすキーワードを10年間にわたる記事の中から収集し、その頻出状況を検討した結果、クラシック・レトロとアバンギャルド、フェミニンとマニッシュ、ロマンチックとスポーティー等、相対する表現が同時期に並立して使用されていることは注目できる。このことは、ファッション界が前代に見られた流行を主導する存在でなく、今日に継承される話題提供を行なう立場となったことを物語っている。この状況は70年代後半から見られるようになった個性化を標榜する着装傾向が基盤となっているためだが、着装者側が他との区別に、より高級観を重要視するようになったのは80年代の一般的な傾向といえる。その特徴は、素材面で、前時代のいわゆる「天然志向」を一步押し進め、日常着にまで希少な高級綿や高級ウールに、原産地や獣毛名等で区別した付加価値を求める選択傾向において顕著に現れた。